

連載：原点

定着をめざして

市立銚子高等学校 島田 日花

市立銚子高校での勤務が始まり、早くも5ヶ月が経過しました。去年は1年間講師として勤務し、高校2年生の副担任、分掌は進路指導部でした。今年度も高校2年生の副担任、分掌は進路指導部を担当することになり、さまざまな経験を積む日々が続いています。

授業では、数学が苦手とする生徒を担当することが多く、数学が苦手でもなるべく簡単に解ける！案外解ける！という実感があるような授業ができるよう意識しています。ただ、自分は経験が浅く、生徒の興味を惹く面白いネタや、覚えやすい語呂合わせ等の引き出しが多くはありません。とはいえただ教科書の内容を教えるだけでは、生徒は数学が苦手なままになってしまふと感じ、まずは生徒との人間関係作りから始めました。よく分からない先生からよく分からないことを教えられるのは生徒にとって苦痛だと感じたからです。お互いのことを知ることができるよう、授業以外でもコミュニケーションをとり、行事などではともに楽しむことをこころがけ、積極的に関りをもつようにしました。また、授業では生徒ができたことを評価し、生徒の疑問に対してはそのままにせず納得するまで一緒に考えることを意識しました。数学が苦手な生徒が多い中、数学の授業が一番楽しいと言ってくれる生徒もいて、これからも頑張る励みとなりました。

しかし、学力をつけるという点では難しく、授業では分かっても忘れてしまう、家では復習する習慣がなく楽しく授業で学んだものの定着せず、定期考査等の結果として現れないことが悩みでした。自宅での学習習慣の確立は難しく、教員ができることは限られているのではないかなと思ってしまうこともありました。それでも、自分にできることは何かを考え、復習プリントや要点をまとめたプリントを作成したり、復習プリントに間違っ箇所へのコメントをつけて返したり、学校に残って補習する生徒から質問を受け付けたりと、生徒の知識の定着への一助となれるよう時間を費やしました。生徒の成績が伸び悩むところにまだ課題はありますが、授業の前に復習として問題を解かせたり、授業のまとめを自分の言葉でまとめさせたり、反復や印象に残るような工夫を考え、生徒の知識・技術の定着を目指した授業を目指して様々なことに挑戦していきたいです。

自分なりの授業のやり方や教え方が確立されていない状態ではありますが、先輩方の授業を見学させていただいたり、指導教員からご指導いただいたりして、自分にとっても生徒にとっても楽しく興味深い授業を目指していきたいです。